

事業名 お江戸日本橋舟めぐり

■事業の目的（300 字程度）

一般の方を対象に都内の中小河川を小型電気ボートでめぐる観光舟運事業であり、都心地域の観光集客と活性化を目指す地域社会貢献活動である。ただし、同様の舟運事業が数多くあるなかで、建設コンサルタントが実施する事業として、江戸・東京の水辺を中心としたまちづくりの歴史を学んでいただくとともに、水面から見るさまざまなインフラ施設に関する解説を通じて、防災、環境、まちづくりなどの観点から、都市の現状や課題、ふだんの生活のなかでは気が付くことのないインフラの存在とそれが果たしている役割、さらにはそのインフラを支えている建設関連の技術者像などを正しく理解していただくことを大きな狙いとしている。

■事業の概要（300 字程度）

弊社は日本橋地域に本社を構える企業として、日本橋地域の NPO などと連携し 2008 年に「江戸東京再発見コンソーシアム」を結成した。その中心事業であり、弊社が企画・運営を担当する「お江戸日本橋舟めぐり」は、乗客定員 10 人の小型電気ボートを用いた環境にも人にも優しいクルーズである。2018 年現在においては、日本橋川、神田川、小名木川、隅田川など都心の河川をめぐる 6 コースを設定し、月平均 10 日程度、年間 250 便程度の運航を行い、年間 1,500～2,000 人の方にご利用いただいている。また、弊社の技術者がガイドを行う「川のなぜなぜ舟めぐり」などの企画や花見舟などのイベント便、チャーター便を運航している。

■社会的課題の現状アプローチ（図表可）

※解決が必要な社会的課題とは、どのようなものですか。

※この課題を解決するために、本事業ではどのような着眼点でアプローチしようとしていますか。

弊社は建設コンサルタントとして、社会インフラの建設や維持管理を通じたさまざまな社会的課題の解決を本業としている。しかし、これらのインフラ施設は市民の身近に存在するものではあるが、その役割や効果、事業の背景、経緯、実施状況などについては、必ずしも正しい情報が市民に伝わる機会が少なく、時に公共事業に対する誤解もあり、事業進捗に時間を要したり、また、せっかくの施設が有効に活用されない原因となったりしている例がみられる。特に、防災や環境保全については、こうした正しい理解がないことにより被害が拡大したり、環境悪化の進展につながったりする恐れがある。本事業は観光集客による地域の活性化をはかることを目的に始めたものであるが、建設コンサルタント企業としての技術や知見をもとに、前述のような観点から、市民向けの社会インフラに関する正しい情報発信のツールとしての活用をはかり、ひいては社会インフラ整備の健全な進捗、適正な維持管理にも寄与することを目指している。

■具体の事業内容（図表可）

※上記の課題を解決するという観点から、事業の内容をご説明ください

日本橋川に架かる日本橋のたもとにある日本橋船着場を中心に、日本橋川、神田川、小名木川、横十間川、北十間川、隅田川、朝潮運河など、都心の河川や運河をめぐるクルージング

【使用船舶】弊社所有の「江戸東京号」

- ・アメリカ Duffy 社製、全長：約 6.7m、全幅：約 2.8m、喫水：約 74cm
- ・乗船者数 12 名（乗客定員 10 名）、トップスピード約 9.8km/毎時

【運航コース】全 6 コース（所要時間 1 時間～1 時間 30 分）

【運航日数】月 10 日程度、1 日 2～3 便、年間約 250 便

【料金】大人 2,500 円～3,500 円 こども(4 歳～12 歳)1,500 円～2,500 円

【年間利用者数】約 1,500 人～2,000 人

上記通常便に加え、花見舟、夕涼舟、チャーター便などの運航や社会実験や地域イベントへの参加などを実施。

■実施による効果

※この事業を実施することで、社会的課題はどのように解消される見込みですか。

本クルーズに参加された方に乗船後のアンケートをお願いしているが、それによると、水面というふだんとは異なる視点から見ることで初めてわかるまちの姿の新鮮さ、意外性や、ふだん目にしていなくても正しくは理解していなかった社会インフラの存在やその役割などを知ったことの喜びや驚きの声が多く寄せられている。また、大人向けに9～10月に地域イベントの共催企画として実施している「川のなぜなぜ舟めぐり」は、弊社の技術者が専門的な事項をわかりやすく解説するものであり、定員の6倍を超える応募があるなど好評を博している。一方、小中学生向けには夏休みの時期に東京都の閘門管理施設の一般開放と合わせて「扇橋閘門親子体験会」を開催し、参加者の年齢や特性に合わせたイベント便の企画やガイド内容の工夫を行っている。

本クルーズはわずか10人乗りの小型電気ボート1隻での運用による小規模なものではあるが、クルーズ自体に対する満足度も高く、リピーターやロコミによる広がりもみられる。年間を通してコンスタントに運航を継続した結果、2009年9月の運航開始以来、2017年12月までの8年3ヶ月で約14,000人の利用者を数えるにいたっている(チャーター便を除く)。また、後述のように各種メディアで水辺や舟めぐりが取り上げられる機会も増えている。

本クルーズを通じて、水辺空間を楽しみながら、都市の社会インフラや防災、環境、まちづくりへの正しい理解を深めていただくことの意義は大きく、こうした経験をした方々が増え、今後の都市整備に向けて積極的に発言していくことで、よりよい街づくりに結びついていくものと考えている。

■事業の特徴・革新性

※既存の取組と比べてどのような点が特徴的ですか。

※従来の方法と比べて革新的と思われるのはどのような点ですか。

1. 舟を使って、水面からの視点でまちを案内することで、ふだんなかなか気が付かないまちの姿や社会インフラを実際に目にしながら学ぶことができる。
2. 他のクルーズではまだまだあまり使用されていない静かな小型電気ボートを用いているため、水際や水鳥に近づくことができる、ゆっくりと風景を観察できる、ガイドの話を良く理解することができる、環境に対する意識が醸成されるなど、快適な環境のなかで特徴あるクルーズを楽しみながら学びを得ることができる。
3. 建設コンサルタントが主催していることで、専門的な知識を背景としたわかりやすい解説を学ぶことができる。
4. 年間を通じた継続的な運航を行うことで、利用者にさまざまな参加機会を提供できる。
5. 大人向け、こども向けなど、それぞれの特性に応じたコースやガイド内容の企画を行うことで、多様な参加者のニーズに応えることができる。

■今後の展望

※この事業に対する今後の展望をご記入下さい。

本事業は企業のCSV活動として実施しているものである。小型電気ボートわずか1隻での運用であるため、経費は参加料収入を上回り、収益事業としての展開は今後も難しいと判断される。しかし、クルーズに参加される方々に水辺の魅力を伝え、また、さまざまなインフラ施設に対する理解を深めていただくツールとしては、非常に有効・有益な手段であると考えている。このクルーズに対しては各種メディアの関心も高く、いままでに多くのテレビ、新聞、雑誌、ミニコミ誌などから取材を受けたり、撮影協力を行ったりしてきている。こうした活動を通じて、社会インフラや建設関連産業の社会的認知度向上には大いに貢献していると考えられ、今後は新たな企画を検討しつつ、事業を継続していく予定である。